

どんびま

2010年10月6日発行

発行者 椋の湖農業小学校

花馬まつり

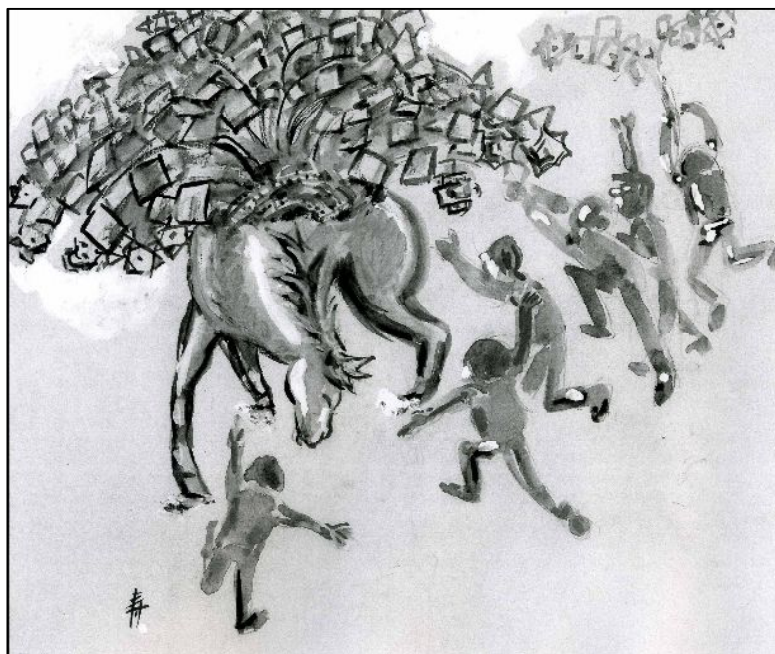
10月の第2日曜日は坂下神社の秋祭りである。800年の伝統行事は岐阜県の重要無形民俗文化財に指定されている。

稚児たちが手綱を引く木曾馬の背には365本の花が揺れる。花は竹串に和紙を巻き、紙縫りにつけた折り紙を生らした物だ。折り紙の色は米や野菜を表している。

町内3地区からそれぞれ出発した花馬は駅前に集結し、行列を整えてお宮に向かう。境内に入って合図の大太鼓がなると、人々は馬

に駆け寄って花を奪い合う。取った花は持ち帰り田や畑に挿して豊作を祈るのだ。

それぞれの花馬に付き添うお囃子の笛太鼓は中学生の役で、坂下中学校では地元民を講師に招く選択授業の中にお囃子も入っていて伝統を受け継いでいる。女の子たちは自治会ごとの揃いの衣装を着て、各所で手踊りを披露する。秋は心躍る季節でもある。 (草)



10月授業日のご案内

- 日程 10月17日(日)
- 受付 9:00~ 9:30
- はじめの会 9:30~ 9:45
- 授業 9:45
- (収穫・畑仕事) ~12:00
- 昼食 12:00~13:00
- 授業 13:00
- (稲の脱穀・焼き芋) ~15:00
- 終りの会 15:00~15:30

●締め切り 10月12日(厳守)

●問い合わせ・緊急連絡

- 持ち物 手袋、タオル、雨具、着替え
買物袋(たくさん)、箸、食器

●郷土料理 栗赤飯、豚汁ほか

☆文集の原稿を持参してください。

農小での楽しかったこと、心に残ったこと、ご意見、思い出の絵、何でも結構です。

同封の原稿用紙に、濃く書いて下さい。

(書き方は、5ページ)

10月の授業日に欠席の場合は、10月25日までに事務局山内まで郵送して下さい。

Tel0573-75-4417・09051109362・

FAX0573-75-4418 (山内總太郎)

～とくちゃんの農小レポート～

案山子さん田んぼの見張りで苦勞さん

昔から〇〇〇心と秋の空、とよく云われていますが、朝は雲一つ無かった青空も昼には急に雲が湧き、3時頃にはポツリポツリと降りだしました。近年は天気の様子が変わりが急激な様に感じます。

- 1 午前の授業。 栗ひろい、この時期は早生と晩生の間に入る端境期でしたので、あまり収穫は無かったようで残念でした。
畑の作業、ハクサイの苗を植え付けましたが、柔らかい苗を丁寧に植え付けることは、初めての生徒さんには大変だったようでした。
畑の除草、野菜の成績は天候に支配され易いが、雑草は元気に育ちますので、草取りに汗を流しました。
- 2 昼食。 松茸ごはん、きのこ汁、トマトサラダ、ひじきサラダ、人参漬け物、
昔は子供でも松茸を採る事ができましたが、今では幻の茸となってしまいました。
昨年の春に植菌した椎茸は秋には姿を現すかも？乞うご期待！！
- 3 午後の授業。 農小田んぼで稲刈りを体験しました。稲刈り鎌を使って3把づつを刈りとり、持ち帰ってハザ掛けしましたが、これは10月の授業日に稲落とし体験に利用します。残りの稲は機械を使って刈り取り、カントリーに持ち込んで玄米にいたしますが、これは10月までハザ干しすると胴割れ米となってしまうためです。
- 4 案山子の解体。 稲刈りの後は各自の案山子を持ち帰り、1か月にわたる田んぼの見張りに感謝しつつ、解体作業を行いました。今年度のJAひがしみのカレンダーの9月には、農小の案山子写真が載っています。今年も沢山のカメラマンがシャッターを切った事でしょう。案山子コンクールの表彰は卒業式に行われますので期待して下さい。
- 5 バケツ稲コンクール。 今年も参加者ほぼ全員の出品があり、先生方による審査が行われました。バケツ稲にも天候不順が影響したのでしょうか、昨年や一昨年に比べると成績が悪かった様に見受けられました。やはり分けつ止めの過程が難しい様子ですので、来年は先生の指導をしっかり受けましょう。
- 6 持ち帰り。 今月は野菜の持ち帰りは有りませんでした。子持ちカンランの苗2株が配られました。立ち上がった莖の周りに、小さなキャベツが無数に付きます。丸いまま調理出来るので、炒め物、煮物のほか、カレーライスやシチュー等にも利用できます。プランターで育ててくださいね！

～とくちゃんのちょっと一言～

今年のお米は胴割れが多いのでは、と農家の方は心配しています。これは長雨や猛暑などによる天候不順が影響しているようです。1年に1度しか収穫出来ない農産物にとっては、天候はとても気になるものです。世界の各地で地球環境の変化による、洪水や干ばつと云った被害が起きています。日本の気象変化もその一環であり、地球温暖化防止対策は急務と思われれます。

～あほ兄の百姓ぼなし～

案山子は虫や病気は追い払えなかった

今年の夏の暑さは記録的で、熱中症という言葉が大流行した。9月に入っても救急車の熱中症搬送が続き、岐阜県では昨年比6.7倍の出動回数だったという。

報道によると、この夏は世界的な異常気象だという。冷夏や集中豪雨で被害が出ている国もあれば、高温と乾燥で農作物が不作の国もあった。ロシアでは小麦が凶作で輸出に大きな影響がでている。

国内でも、今までに無い現象が起こっている。この夏の猛暑と少雨の影響で秋の主要野菜の品薄が長期化しそうだ。東北や高冷地などの夏秋野菜の産地では不安が出ていると聞く。夏前の予報では今年は冷夏で米不作といわれていた東北地方では、高温により害虫が多発し、作柄はそれほど悪くなかったが、米の質が悪かった。一等米という良質米が平年は70%以上あったのに、今年は16%と悪く農家の収入に大きな影響が出ている。

御多分にもれず、我が農小の作柄も悪い。田植え後の管理が悪かったか、雑草(ヒエ)が茂ってしまった。先生・スタッフで3回除草し、ようやくもち直したと思っていたが、減収はその為ではなかった。9月にコンバインで刈った米の調整を依頼したライスセンターのまなちゃん(農小スタッフ安江学君)から「安保兄！農小の米は飯米にならない。五平餅ならよいが」と電話が入った。早い話、いもち病とカメムシの害が出たのだ。昨年は豊作だったし、刈り取る時はそんなに悪くないと思っていただけに残念だった。

あるお母さんから「今年はなぜ全部刈らないのか」と聞かれた。『そばの花まつり』の関係から授業日が1週間ずれて、刈取りの時期が大きく遅れている。そのために胴割れが心配されるからだ。10月の授業日まで稲架(はざ)にかけ乾燥させると、さらに胴割れが増して脱穀や精米をするとき砕けて粉になってしまうからである。そんな理由で一人3把とし、10月に手作業で脱穀し、ピンで精米する量にさせてもらったのだ。みんなで力を合わせ、全面刈取るという満足感がないかもしれないと心が痛む。

刈取りは少しだったが、日本人が昔から行ってきた主食の米のできるまでを少しでも知ってほしいし、自然・天候によって農作物の出来不出来があることも知ってほしい。

みなさんのバケツ稲も苦労があったと思う。

バケツ一つに苗を3～5本植えると、だいたいお茶碗一杯分のお米がとれる。一日3回ごはんを食べるとして、1年で $3 \times 365 \text{日} = 1095$ 個のバケツに1株ずつ稲を育てれば、1年間ごはんを食べられる計算になる。(参考「農文協 イネの絵本」より)

平成5年は米の大凶作だった。農小を立ち上げた平成6年3月は全国的に米飢饉となり、米の値段は高騰した。備蓄米が少ない国の米対策が非難されたのを思い出した。

わが国の食糧自給率は40%と低い。輸入先のロシアなどが小麦の不作の時を考えると結果は目に見えている。自国の食料は自国で作らなければと強く思う年だったし、農薬との関係も考えさせられる年だった。

今は、米ばなれ米あまりの現象で、減反といって稲を作らない田が増えている。他の作物を作るか農地としての保全を図るのが原則だが、最近、山間部などでは、先人達が苦労して作った田畑でも効率の悪いところは耕作しない。農家の高齢化が拍車をかけて、耕作放棄地が増えていることも見逃せない。

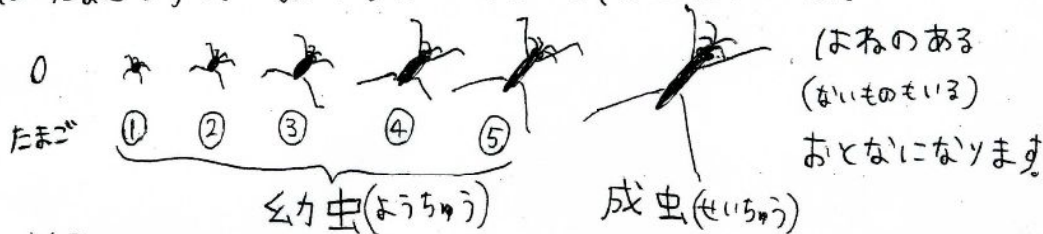
～かなちゃんの虫日記～

冬のすごしかた

あき
来^{あき}ま^{あき}さ^{あき}かりで^{あき}す^{あき}が、^{あき}あ^{あき}し^{あき}た^{あき}ち^{あき}は^{あき}も^{あき}う^{あき}冬^{あき}の^{あき}こ^{あき}と^{あき}を^{あき}し^{あき}ん^{あき}ほ^{あき}い^{あき}
(^{あき}て^{あき}い^{あき}ま^{あき}す。人^{あき}は^{あき}さ^{あき}ま^{あき}く^{あき}な^{あき}ら^{あき}た^{あき}ら^{あき}あ^{あき}た^{あき}た^{あき}か^{あき}い^{あき}ふ^{あき}く^{あき}を^{あき}き^{あき}て^{あき}
こ^{あき}た^{あき}つ^{あき}に^{あき}入^{あき}れ^{あき}ば^{あき}い^{あき}い^{あき}て^{あき}す^{あき}け^{あき}ど、あ^{あき}し^{あき}た^{あき}ち^{あき}に^{あき}は^{あき}そ^{あき}ん^{あき}な^{あき}の^{あき}あ^{あき}り^{あき}ま^{あき}せ^{あき}ん。
そ^{あき}れ^{あき}そ^{あき}れ^{あき}の^{あき}あ^{あき}し^{あき}に^{あき}合^{あき}っ^{あき}た^{あき}や^{あき}り^{あき}か^{あき}た^{あき}で^{あき}冬^{あき}を^{あき}こ^{あき}し^{あき}て^{あき}い^{あき}ま^{あき}す。

た^{あき}と^{あき}え^{あき}ば^{あき} ア^{あき}メ^{あき}ン^{あき}ボ^{あき} (水^{あき}の^{あき}上^{あき}に^{あき}う^{あき}か^{あき}ん^{あき}で^{あき}く^{あき}ら^{あき}し^{あき}て^{あき}い^{あき}る。た^{あき}ま^{あき}ご^{あき}は^{あき}あ^{あき}し)

ア^{あき}メ^{あき}ン^{あき}ボ^{あき}は^{あき}た^{あき}ま^{あき}ご^{あき}か^{あき}ら^{あき}小^{あき}さ^{あき}な^{あき}ア^{あき}メ^{あき}ン^{あき}ボ^{あき}か^{あき}う^{あき}ま^{あき}れ^{あき}て、5^{あき}回^{あき}た^{あき}ら^{あき}ひ^{あき}て



お^{あき}と^{あき}な^{あき}の^{あき}メ^{あき}ス^{あき}が^{あき}た^{あき}ま^{あき}ご^{あき}を^{あき}う^{あき}み、そ^{あき}の^{あき}た^{あき}ま^{あき}ご^{あき}が^{あき}お^{あき}と^{あき}な^{あき}に^{あき}な^{あき}ら^{あき}て^{あき}ま^{あき}た^{あき}た^{あき}ま^{あき}ご^{あき}を^{あき}
う^{あき}み...と^{あき}い^{あき}う^{あき}の^{あき}を^{あき}春^{あき}か^{あき}ら^{あき}夏^{あき}の^{あき}あ^{あき}い^{あき}た^{あき}く^{あき}り^{あき}か^{あき}え^{あき}し^{あき}て^{あき}い^{あき}ま^{あき}す。

と^{あき}こ^{あき}ろ^{あき}が^{あき}、小^{あき}さ^{あき}な^{あき}体^{あき}の^{あき}幼^{あき}虫^{あき}で^{あき}は^{あき}さ^{あき}ま^{あき}い^{あき}冬^{あき}を^{あき}す^{あき}ご^{あき}す^{あき}こ^{あき}と^{あき}は^{あき}
で^{あき}き^{あき}ま^{あき}せ^{あき}ん。は^{あき}ね^{あき}を^{あき}も^{あき}つ^{あき}た^{あき}成^{あき}虫^{あき}な^{あき}ら^{あき}ば^{あき}、は^{あき}ね^{あき}で^{あき}と^{あき}ん^{あき}で^{あき}、水^{あき}の^{あき}
そ^{あき}は^{あき}よ^{あき}り^{あき}も^{あき}あ^{あき}た^{あき}た^{あき}か^{あき}い^{あき}と^{あき}こ^{あき}ろ^{あき}へ^{あき}ひ^{あき}っ^{あき}こ^{あき}せ^{あき}ま^{あき}す。(あ^{あき}ち^{あき}は^{あき}の^{あき}下^{あき}と^{あき}か...)

そ^{あき}し^{あき}て、そ^{あき}こ^{あき}で^{あき}春^{あき}か^{あき}く^{あき}る^{あき}の^{あき}を^{あき}じ^{あき}つ^{あき}と^{あき}ま^{あき}ち^{あき}ま^{あき}す。春^{あき}か^{あき}ま^{あき}た^{あき}ら^{あき}水^{あき}を^{あき}
さ^{あき}か^{あき}し^{あき}て^{あき}と^{あき}ん^{あき}で^{あき}い^{あき}ま^{あき}す。

こ^{あき}の^{あき}さ^{あき}く^{あき}せ^{あき}ん^{あき}は^{あき}夏^{あき}か^{あき}ら^{あき}は^{あき}じ^{あき}ま^{あき}ら^{あき}て^{あき}い^{あき}ま^{あき}す。9^{あき}月^{あき}ご^{あき}ろ、^{あき}太^{あき}陽^{あき}が^{あき}
(す^{あき}ま^{あき}い^{あき}の^{あき}か^{あき}早^{あき}く^{あき}な^{あき}る^{あき}こ^{あき}ろ^{あき}か^{あき}ら^{あき}、成^{あき}虫^{あき}の^{あき}メ^{あき}ス^{あき}は^{あき}た^{あき}ま^{あき}ご^{あき}を^{あき}う^{あき}ま^{あき}な^{あき}く^{あき}
な^{あき}る^{あき}ん^{あき}で^{あき}す!せ^{あき}っ^{あき}か^{あき}た^{あき}ま^{あき}ご^{あき}を^{あき}う^{あき}ん^{あき}で^{あき}も^{あき}お^{あき}と^{あき}な^{あき}に^{あき}な^{あき}る^{あき}前^{あき}に^{あき}冬^{あき}か^{あき}
き^{あき}て^{あき}し^{あき}ま^{あき}つ^{あき}た^{あき}ら、^{あき}幼^{あき}虫^{あき}は^{あき}し^{あき}ん^{あき}で^{あき}し^{あき}ま^{あき}い、も^{あき}つ^{あき}た^{あき}い^{あき}な^{あき}い^{あき}し^{あき}か^{あき}あ^{あき}い^{あき}そ^{あき}う^{あき}な^{あき}ので。
^{あき}日^{あき}間^{あき}の^{あき}時^{あき}間^{あき}が^{あき}短^{あき}く^{あき}な^{あき}ら^{あき}て^{あき}い^{あき}く^{あき}の^{あき}を^{あき}か^{あき}ん^{あき}じ^{あき}て、冬^{あき}か^{あき}く^{あき}る!と^{あき}あ^{あき}か^{あき}る^{あき}の^{あき}で^{あき}す。

文集原稿の書き方についてお願い

原稿用紙は2種類あります。

- ・低学年（3年生以下）は10ミリ原稿用紙に書いて下さい。
- ・高学年と親さんは7ミリ原稿用紙に書いて下さい。中央の左右横2列づつを空けて、太い線の枠内に2段に書いて下さい。
- ・どちらも太い線の枠内の最初に「題」と「氏名」を書いて下さい。

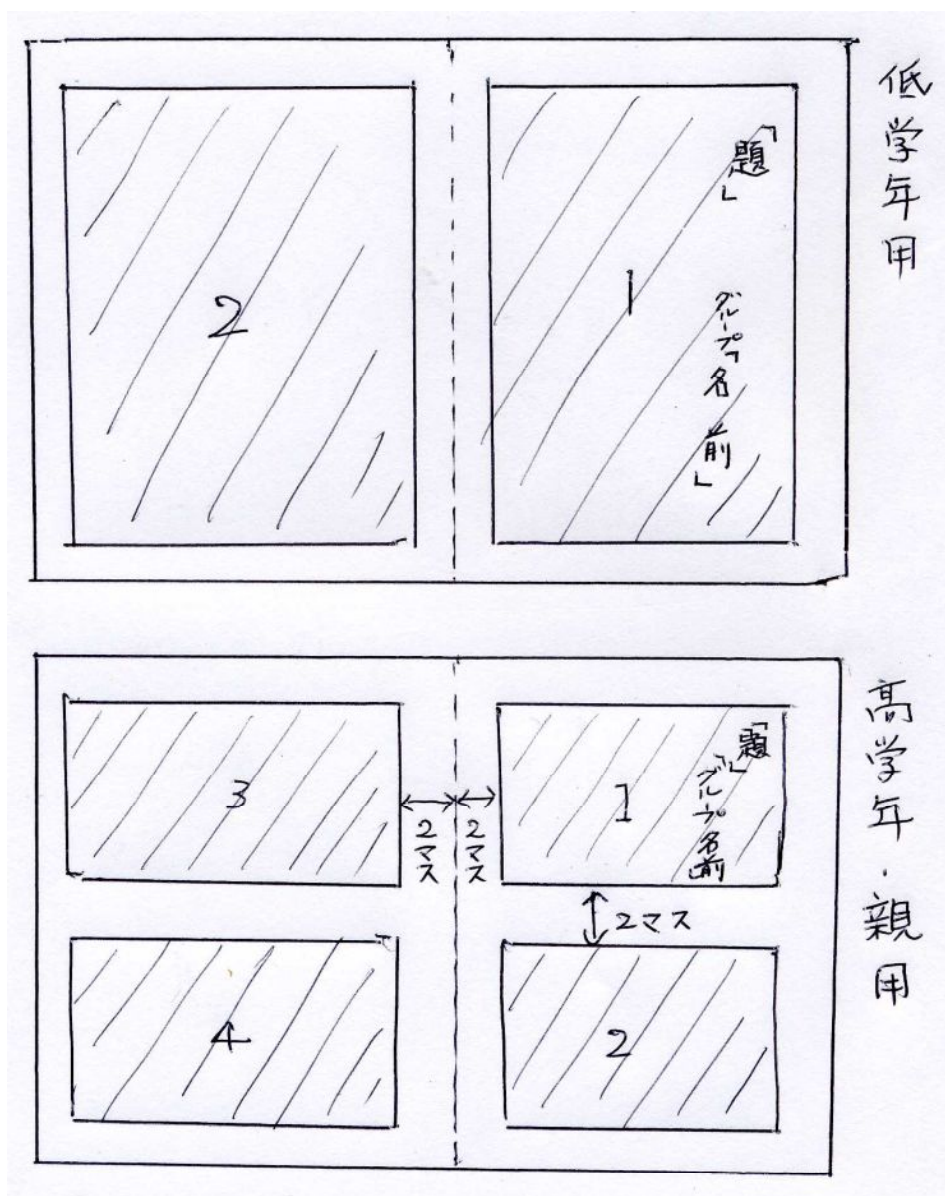
皆さんの原稿はそのままコピーをとって印刷にかけますので、できるだけ濃く書いて下さい。
鉛筆なら2B・4Bがいいかも。

消しゴムで消して書き直す場合は前の字をきれいに消して下さい。

文章だけでなく、絵・スケッチももちろんO.K.です。

皆さんの一番心に残った事、楽しかった事、関心があった事など何でもお書き下さい。

農業小学校に対するご意見も是非お願いいたします。



第17期
椈の湖農業小学校

卒業記念

作品展

平成 22 年 11 月 28 日(日曜日)

農小の卒業式の日です

椈の湖自然公園ギャラリー

農小の受付をする建物です

作品を出してください

「夏のもの作り教室の作品」を持ち寄ってください。

その他 農小で撮った「写真」思い出を描いた「絵」など

なんでもけっこうです。 作品は当日持参してください。